

出会いの場面にみられる あいさつ言葉以外の表現

長谷川頼子

1 本稿の目的

本稿では、大学生を対象とした調査結果に基づき、出会いの場面に見られる発話表現のうち、「おはよう・こんにちは・おっす」などを除いた、すなわちあいさつ言葉「以外」の表現をとり上げ、内容の分類を行い、表現形式上の特徴を考察する。その上で、あいさつ言葉との相違を考察する。出会いの場面でのコミュニケーションの開始は、通常あいさつ言葉の交換によって規定される。あいさつは行動全体が高度に儀礼化されていて、一般に、あいさつの発話表現や交換のあり方は定型的である。現代日本語では「おはよう・こんにちは・こんばんは」のようなあいさつの決まり言葉や、語形の短縮が進んだ「おっす・ちわ」などの表現がある。一方、「元気？・久しぶりですね・お出かけですか？」などの、やや実質的な意味内容を持つ表現も、ごく日常的に観察される。さらに、次の実例もある。

- (1) お待ちどう (お待ちどうさま) の省略形)
- (2) 待った? (質問形)
- (3) 早いね (「来るの早いね」の省略形)

(1)(2)(3) は同じように友人と待ち合わせた出会いの場面であるが、いずれもあいさつ言葉以外の表現が用いられている。他にも、同じ場面であれば「遅くなってごめんね」や「何してんの？」などの発話も可能である。つまり、同じ場面で用いられる表現には、形式や内容の点で、複数の可能性が存在すると考えられる。しかし、それぞれに実質的な意味内容を持つ

ていて、あいさつ言葉と断定しにくい表現である。そのため、あいさつが儀礼的行動だと定義される限り、あいさつ言葉以外の表現を積極的に考察する機会は、あまりなかったように思われる。だが実際に (1)~(3) のようなあいさつ言葉以外の発話が会話の開始に用いられるという事実がある以上、単にこれを「あいさつの交換が省略された実質的なやりとり」とするのでは不十分である。本稿は、会話の開始に位置できるあいさつ言葉以外の表現には、表現内容や形式上にも、何らかの特徴や傾向があるのではないかと考える。そこで、あいさつ言葉以外の表現を内容から分類し、どのような実現形を許容するかについて、データからみた特徴を中心に記述する。そしてその結果から、あいさつ言葉との相違点を考察する。

2 先行研究

本章では、あいさつ言葉とはどういう表現か、あいさつ言葉以外の表現にはどのようなものがあるかに大別して検討する。

2.1 あいさつ言葉の定義

あいさつの形式を機能との関わりから 3 分類した鈴木 (1981) によると、出会いの場面のあいさつは以下の 2 つに分類される¹。

- (4) 言話的 (phatic) : 合図的表現 (ヤアヤア・ハロー etc.)
- (5) 言話的・描写的 (referential) : 定型表現 (おはよう・こんにちは etc.)

ここでは、あいさつ言葉の最も基本的な機能は「言話的 (phatic)」、すなわちことばによって相手との接触を図る働きとされる。そして、(4) が「言葉として具体的な意味内容を持っていない」のに対し、(5) は「ある程度の意味内容を持つ」ちながらも、「全体を一つの公式・定式として用いている」としている。鈴木 (1981) に限らず、従来の定義は意味が形骸化し、形式が定型化したものという外延的説明が中心である。次節に挙げる小林 (1981) でも、意味内容や形式の省略の点から、あいさつの表現を「定型 (おはよう・こんにちは・おっす etc.)」と「準定型 (お久しぶりです・お

¹残り 1 種はスピーチ・祝詞の類 (ごあいさつ etc.) で、言話的・描写的・詩的 (poetic) の 3 機能に関わるとしている (鈴木 (1981:41))。

早いですね etc.)」に区別している²。だが、これらの説明は、両者を規定するには基準が不明確である。そこで、本稿では「あいさつ言葉」をあらかじめ(6)のように規定しておく。(6)は、鈴木(1981)の分類にはあてはまらないが、小林(1981)の「定型」に概ね相当する。以下、「あいさつ言葉」はこの規定に従う。

(6) あいさつ言葉とは、字義通りの意味が失われ、出会いの場面の冒頭にしか用いられない言語表現として、「おはよう・こんにちは・こんばんは」や「やあ・おっす」³などを含むものとする。

2.2 あいさつ言葉以外の表現

あいさつ言葉以外の表現は、データを数量的に扱う調査研究などでは比較的多くみられる⁴。米川(1990)では、学校・道での出会いと別れのあいさつ言葉を大学生が自由回答した結果を分析している。あいさつ言葉以外に、呼びかけや、「何してんの・どこ行くの」など興味深い回答が見られたが、内容から「相手の行動・状況への問い掛けのことば」と言及するにとどまっている。また小林(1981)では、小説・シナリオをデータに、日英対照分析の視点から「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」などの「定型」に対して存在する、「準定型」の表現を、内容から次の7つに分類している⁵(小林(1981:97)、以下カッコ内は例文)。

(7) 迷惑のわび (このあいだはどうも)

(8) 日頃/過去の好意に対する感謝(いつぞやは有難うございました)

(9) 相手の行動・状態に対する問いかけ (おでかけですか)

²定型は「符帳的合図、または極端な省略表現で意味の上からはいわゆる非命題的とされる表現」、準定型は「命題的」な表現で、型通りとはいえ、社会関係の円滑化に役立つような意味内容を一応備えたもの」とされる(小林(1981:89))。

³「あいさつ言葉」は、本稿の調査における実際のデータ例には次の表現がある。おはよう(おはようございます・おはよ・おはよっす)、こんにちは(こんらわ・ちわ・ちわっす・ちやっす・こんちわっす)、おっす・おう・よっす・よう・うっす・ういっす etc.

⁴本文に挙げた以外にも、Schegloff(1968)を始めとする電話の会話開始部の分析研究があり、膨大なデータから一般規則が導かれている。しかし、電話の会話は音声に依存しており、視覚的要素が大きく影響する出会いに対しては、その規則を適用することはできない。

⁵これは日本語の場合で、言語により異なる(英語は4項目)(小林(1981:97))。

- (10) 再会の喜び (お久しぶり)
- (11) 相手の様子に対する好意的コメント (相変わらずお元気そうで)
- (12) 相手の welfare 一般に対する問いかけ (お変わりありませんか)
- (13) 天候などに対するコメント (いいおしめりで)

ここでは表現内容を抽出するにとどまっただけで、この記述だけでは、内容を満たす全ての文法的な発話表現が含意されてしまう。しかし実際はそうではない。迷惑のわびを例にとると、「(ご無沙汰して) すみません・申し訳ありません」に比べ、「謝ります・謝罪します」は、出会いの場面での発話表現としてはきわめて不自然に感じる。つまり、あいさつ言葉以外の表現は、出会いの場面に結びついて用いられる形式によって実現され、それ以外は不自然だったり、なじまない表現と感じられるのではないか。従って、これらの表現内容が、出会いの場面において適切な発話となる実現形に関する記述も必要と考えられる。本稿では、この 7 類型を基本的指標としてデータの表現内容を整理し、内容別に形からみた特徴を考察する。

3 分析

3.1 使用するデータ・方法

3.1.1 調査の概要

データは、1997 年 7 月に都内の大学生を対象に行った以下 2 種の調査結果から、あいさつ言葉以外の表現を利用する⁶。

(a) 観察記録 (出会いの場面における発話のやりとりの記録 136 例) 記録は、時刻・人数や性別・待ち合わせの有無・発話表現 (話し手・聞き手による発話連鎖 (相当分))・非言語行動の 6 項目からなる。

(b) 質問紙調査 (130 部配布、有効回答数 101 (男子 51 女子 50)) 時間・場所・相手・状況 (待ち合わせの有無) の各要素を含む出会いの場面を 1

⁶ 出会いの場面には、他に間投詞や呼称がみられるが、本稿では考察対象外とする。

設問として(下例)、操作的に 30 の場面を設問化した質問紙を用いる⁷。
記入は言語行動・非言語行動を自由回答とした。

(例)

朝、いつも待ち合わせている授業の部屋で親しい友人と会いました。

(朝) (待ち合わせ) (公的場所) (親しい相手)

3.1.2 データの性質

データには、観察記録に基づく発話表現の実例と、質問紙調査の回答による表現の両方が含まれている。両結果を用いるのは、まず観察による実例だけではデータの量が十分ではないこと、また質問紙調査は行動意識上の回答だが、同じ場面的条件に対する複数の表現を得られ、かつ観察調査のデータ不足を補強できると判断したためである。本稿では表現内容と形式の考察が中心で、数量的処理は目的としないため、両結果を 1 つのデータとして扱う。また、今回は待遇用法による表現の違いや、男女差の要素は無視した。これについては機会を改めて考察したい。

データに含まれる要素には、一方で「出会い方」ともいうべき、少なくとも次の 3 つの状況が考えられる。

- (14) 意図せず通りがかりで偶然ある相手に出会う場合
- (15) あらかじめ待ち合わせをした上で特定の相手に出会う場合
- (16) 既に一度出会った相手に、同日もう一度偶然出会う場合

この違いは、発話表現に影響する可能性がある。話し手が約束に遅れれば、あいさつ言葉に優先して「遅れてごめんね」という謝罪表現が選択され、「おはよう」とあいさつ言葉を交わした相手に再び出会った場合、他の表現か、会釈などが選択される可能性がある。こうした状況の違いをデータがあらかじめ含んでいることをふまえ、分析および考察を行う。

⁷質問紙の各設問内容については、土屋(1998)に掲載してある。

3.2 追加する3つの類型

データを内容から分類した結果、(7)～(13)の7類型に対して、データでは(8)「日頃(または過去)の好意に対する感謝」および(12)「相手の welfare 一般に対する問いかけ」にあたる表現はほとんど見られなかった。その一方で、データでは7つの類型にあてはまらない内容を持つ表現として、以下の3つが見られた。

3.2.1 相手の存在の発見や確認

「いた!」「きたきた」「おっ、〇〇じゃん」のように、待ち合わせた相手が現れたことを発見したり確認したり、あるいは相手に偶然出会ったことに対して驚きを示す表現が用いられる場合がある。内容から本稿ではこれを、「相手の存在の発見や確認に関する表現」と考える。

3.2.2 相手の様子に対する非好意的コメント

待ち合わせに遅れてきた相手に、話し手が「遅いよ!」や「待ったよ!」と非難めいたコメントをする場合が見られた。あいさつ行動が、相手に敵意がないことを示して相互の親近感を深める目的があるとするれば、このような表現は、積極的に相手に敵意を示す点で、相互関係を危機に脅かしかねない。従って、こうした表現は、よほど人間関係が確立したきわめて限られた相手にしか使えないと考えられる。本稿ではこれを、(10)「相手の様子に対する好意的コメント」に対立して、「相手の様子に対する非好意的コメント」と呼ぶ。

3.2.3 次の行動の示唆や促し

食事や帰宅など、相手と共にどこか別の場所への移動を目的とした待ち合わせの場合に限り、「行こう」「(さあ)帰ろう」など、相手を促す表現が見られた。本稿ではこれを、「次の行動の示唆や促し」と呼ぶ。

以上から、本稿では(7)～(13)に次の3類型を追加する。

- | | |
|------------------------|----------------|
| (17) 相手の存在の発見や確認の表現 | (きたきた。/いた!) |
| (18) 相手の様子に対する非好意的コメント | (遅いよ! / 待ったよ。) |
| (19) 次の行動の示唆や促し | (行こう。/ 帰ろう。) |

3.3 表現内容別に見た特徴

3.3.1 迷惑のわび

本来小林 (1981) では「先日はどうも」のように、過去または日頃の無礼のわびを類型化しているが、データでは待ち合わせに遅れた場合と、用事を依頼した相手と待ち合わせて会う場合の謝罪が分類された。

ここでは、(20) に示される定型的な謝罪表現のほか、(21) のように話し手が約束に遅れたことや、(22) のように相手が自分に対して行った有益状況について、謝罪表現の中で述べる表現が見られる。その言及部分が独立して、(23) のように単独で謝罪を示す表現としても用いられる。

(21)(22)(23) はいずれも、わびの対象となる行為・状況に直接言及しており、間接的発話行為を遂行する表現形式が用いられている。このことは (24) にもあてはまる。さらに、待ち合わせに遅れた場合の謝罪表現は、(25) のような質問形によっても実現されることがある。

- (20) ごめんね。／わるいね。／すみません。
- (21) ごめん、遅れた。／遅くなってすみません。
- (22) わざわざ来てもらってわるいね。
- (23) 遅れたよ。／遅れました。／遅くなりました。
- (24) お待たせしました。／お待たせ。／お待ちどうさま。／お待ち。
- (25) 待った？

3.3.2 日頃／過去の好意に対する感謝

日頃や過去の好意に感謝する内容の表現はみられず、唯一用事を依頼した相手と会う場面で (26) や、謝意を強める (27) の形式だけが見られた。

- (26) ありがとう。／ありがとうございます。
- (27) わざわざありがとう⁸。／どうもありがとう。

⁸元々の表現は「わざわざ来てもらってありがとう」という内容だが、3.3.1 の (22) と同様、副詞が本来修飾すべき「来てもらって」が省略された形式となっている。

3.3.3 相手の行動・状態に対する問いかけ

質問文・疑問文の形式をとるこの項目には、多様な表現形式がある。まず(29)のような表現が数多くみられた。これをみると、他にも(30)のように、問いかけの文を自由に作れそうである。おそらくここには(31)のような型が存在し、その時々相手の行動や状態に応じた動詞が選択されると考えられる。(29)をみると、見れば分かるような比較的明白な事柄についてたずねる傾向があるようだ。ただし(32)のように、過去や現在継続中の行動や状態については問いかけられるが、時制を未来の行動や状態についてたずねる形式に変えた(33)の表現形式はデータには全く見られず、出会いの場面にはなじまない表現と考えられる。(34)の表現は、(32)と異なり、時制を現在継続中もしくは未来の行動をたずねる形式に変えた(35)の表現形式が見られなかった。ただし、(36)の表現は見られる。

- (29) 何してんの? / 何食べてるの? / 何見てるの? / 何探してるの?
 (30) 何聴いてるの? / 何持ってんの? / 何さわいでんの? (作例)
 (31) 何+動詞テ形+イル+(ノ)+?(上昇イントネーション)
 (32) 何してた? / 何してる? / 何見てたの? / 何見てるの?
 (33)??⁹何やるの? / 何するの? / 何見るの?
 (34) どうしたの?
 (35)?? どうしてる? / どうするの?
 (36) どこ行くの?

一方、疑問形式には(37)(38)のような表現がみられた。ここにも(31)と同様に(39)の型が存在すると考えられる。また(37)(38)を(40)のように名詞句だけに省略した疑問表現も多く見られた。さらに(41)のように、相手の表面的な様子の変化を指摘する表現では、変化に言及するため、(40)と異なり、動詞過去形は省略されない。

- (37) お出かけですか? / 授業ですか?

⁹以下、データに見られず、不自然と思われる表現には、文頭に「??」を付ける。

- (38) 授業あるの? / バイトある?
 (39) 名詞句+デス+カ+? / 名詞句+アル+ノ?
 (40) 2限? / 授業? / 今日バイト?
 (41) 焼けた?(日焼けした?) / あれ、髪切った?

3.3.4 再会の喜び

再会の喜びを示す表現には、慣用表現 (42) のほか、相手との出会いの間隔や頻度に言及する表現 (43)(44) がみられた。(42) には「お久しぶり」や「おひさ」などの省略表現がある一方、(43)(44) では省略表現ではなく、「すごい」や「ほんと(本当に)」のように副詞が添加されて表現が拡張される場合が見られた。

- (42) お久しぶりです。 / 久しぶり。 / おひさ。
 (43) 奇遇だね。 / 奇遇じゃん。 / 偶然ですね。 / すごい偶然ですね。
 (44) また会ったね。 / よく会うね。 / ほんと、よく会うね。

3.3.5 相手の様子に対する好意的コメント

ここでは、(11) の文例「相変わらずお元気そうで」とはやや異なった内容の2つの表現が分類された。1つは、待ち合わせや授業前などで先に来っていた相手に対する表現 (45) である¹⁰。もう1つは、相手が仕事とか、試験を控える場面で出会い、(46) のように相手の様子を主観的に評価したり、(47) のように相手を励ます表現で、これらの表現形式によって間接的に相手への労いが示されると考えられる。

- (45) 早いですね。 / 早いな。 / 来るの早いな。
 (46) 大変そうだね。 / 忙しそうだね。
 (47) お疲れ様。 / お疲れ。 / ご苦労様。 / 頑張ってるね。 / 頑張れよ。

¹⁰(45) が積極的に好意を示す表現が一概には決めかねるが、対にある「遅いよ」が非難を表すとすれば、「早いな」にはその状況が好ましいという判断があると思われる。

3.3.6 相手の welfare 一般に対する問いかけ

分類されたデータは「元気？」のみで、考察に至らないが、3.3.2 (日頃／過去の相手の好意に対する感謝) や、3.3.5 (相手の様子に対する好意的コメント) と共通して、相手に対してより好意的な態度を積極的に示す必要性が、大学生の立場ではあまり感じられないのかもしれない。

3.3.7 天候などに対するコメント

ここには (48) の表現が見られたが、データ収集を 7 月に限定したため、「暑さ」の言及以外の表現を得られなかった。冬であれば当然 (49) や、その程度にも言及した (50) の表現も可能と考えられる。

- (48) 暑いね。／暑くない？／あつー
- (49) 寒いね。／寒くない？／さむー (作例)
- (50) 今日は寒いね。／今日すごく寒くない？ (作例)

3.3.8 相手の存在の発見や確認の表現

ここには、2 つの表現形式が分類された。まず、待ち合わせた相手が来たことに気づいた場合に (51) の表現が見られる。(52) の表現は、話し手が一緒にいた連れの人物に話しかける表現としては見られたが、これが待ち合わせの相手に対する表現では不自然に感じられる。「来た」については、疑問形式による表現 (53) も見られた。

- (51) 来た。／来たよ。／来た来た。／いた。／いたよ。／いたいた。
- (52) ??来る。／いる。
- (53) 来た？

もう一つは、相手の名前を挙げる (54) の表現である。これは、単なる呼称 (〇〇！／〇〇ちゃん)、あるいは疑問の表現形式 (55) によって相手への呼びかけを目的とするのとは異なる。この場合は、相手の存在を発見し驚いたことを示す表現であるから、この場合は助動詞「ダ」や「ジャン」が必ずついて表され、問いかけの形式にはならない。

(54) ○○じゃん。／○○だ！

(55)??○○じゃない？／○○？

3.3.9 相手の様子に対する非好意的なコメント

ここでは、待ち合わせに遅れてきた相手に対する非難のコメントとしてのみ用いられ、その表現には (56)(57) がある。どちらも人称のガ格は明示されていないが、(56) は 2 人称 (聞き手)、(57) は 1 人称 (話し手) である。ただし、前出の (23) は (56) とは異なり、1 人称で話し手の謝罪を示す表現となる。(56)(57) は特に、3.3.1(迷惑のわび) に挙げた (21)～(23) とちょうど表裏の関係にあり、相手が自分に対して行った不快状況に言及することで、非難の間接的発話行為が行われていると言える。

(56) 遅い！／遅いよ。／遅かったね。

(57) 待ったよ。

cf.(23) 遅れたよ。／遅れました。／遅くなりました。

3.3.10 次の行動の示唆や促し

これは、元々食事や授業とか、帰宅のために待ち合わせた場合の表現であり、「行く」か「帰る」のどちらかの動詞で表される。その表現形式はムードの要素を必須に持つ点で共通性があり、以下のさまざまなバリエーションがみられた。

(58) 行こう。／行こうか。／帰ろう。／帰ろうか。

(59) 行きましょう。／帰りましょうか。

(60) 行くか。／帰るか。

(61) 動詞意志形 + (カ) / 動詞基本形 + (カ)

(62) 行く？／帰る？

(63)??行く。／帰る。

(64) 行くよ。／行くぞ。／帰るよ。／帰るぞ。

(65) 動詞基本形+終助詞(ヨ・ゾ)

(66)??行かない?／帰らない?

(58)(59)(60)については、仁田(1991:67)では意志表現の疑問化の中で「聞き手への働き掛け性を有する表現」とされ、「ガ格の人称性は話し手と聞き手であるため、一人称ガ格をとる<意志の疑い>から区別され<誘い掛け>として機能する」と説明している。以上から(61)の型が導かれるが、この形式はしばしば「さあ」「じゃあ」「ほな」などの表現を伴う。(62)は上昇イントネーションを伴うことで疑問化されているが、疑問のムードを外した(63)では、相手への促しという発話行為自体が成立しない。

一方で(64)のような表現が見られた。これは、形式上は話し手自身が次の行動へ移ろうとする意志表現であるから、聞き手への働き掛け性は形式上疑問化された(58)~(62)より弱いと考えられる。しかしこの場合は、別の場所へ移動することが、待ち合わせた相手との間に前提としてあるからこそ、聞き手に働き掛ける機能が成立する。よって、(65)の型は偶然出会った場合や、移動が含意にない相手に対する促しの発話行為としては成立しない。さらにこの前提から、移動自体を改めて提案する(66)の表現も不自然と考えられる。データに共通して、移動先を示すへ格は省略されていたことから、出会いの場面でこれらの表現形式が用いられる場合には「ある場所へ移動する」という含意があると考えられる。

3.4 分析のまとめ

以上から、出会いの場面ではあいさつ言葉以外の表現により、謝罪・感謝・質問・労い・非難・促しなどの発話行為が行われることが明らかになり、その表現形式には全体または部分的な形式化や、語形短縮、また逆に表現の拡張などが見られた。とりわけ、データでは語形短縮を許容しても時制操作上の制限や、ムード的要素を必須とする現象などがあり、たとえ文法的適格性を持つ表現でも、場合によっては出会いの場面では制限される。すなわち、あいさつ言葉以外の表現は、単に創造性に支配された、話し手の自由な発話表現ではなく、その内容および形式は出会いの場面と深く関わって成立すると考えられる。

4 考察

ここでは、あいさつ言葉以外の表現の特徴をより明確にするために、あいさつ言葉との対比からとらえ、以下の3点から両者の相違点を考察する。

4.1 表現の形式化の程度

まず、あいさつ言葉は表現全体が形式化していて、(67)や(68)のように語形の極端な短縮を許容する傾向が強く、多くの変種が存在する。

一方、あいさつ言葉以外の表現にも、語形短縮が可能な表現(69)はあるが、あいさつ言葉のような極端な省略(70)はむしろ許容されず、最も省略されたとしても、(71)(40)のように、言及対象となる命題内容や、元々の表現が持つムード的要素は省略できない点で、あいさつ言葉と異なる。

(67) おはよ。／おっは。 (おはようございます)

(68) こんにちは。／ちわっす。／ちーす。／ちわ。 (こんにちは)

(69) お久しぶり。／久しぶり。 (久しぶりですね)

(70) *ひさ。/*ひっし。 (久しぶりですね)

(71) 遅れてごめんね。／遅れたよ。

cf.(40) 2限?／授業?／今日バイト?

4.2 表現形式の拡張性の程度

あいさつ言葉は表現自体がきわめて固定的な性質を持ち、他の要素を加えて表現を拡張することはできない。つまり(72)の時制操作や、(73)で副詞の添加は許容されない。対照的に、あいさつ言葉以外の表現では、(74)のように、副詞句などの要素の添加や入れ替えが可能であり、また(29)では同じ表現の型を持ちながら動詞を自由に選択できる。

(72) *おはようございました。

(73) *本当におはようございます。/*どうもおはようございます。

(74) 遅くなって本当にごめんね。 (cf. ごめんね遅くなって)

cf.(29) 何してんの?／何食べてるの?／何見てるの?／何探してるの?

4.3 文の種類

あいさつ言葉は、基本的にそれ自体で独立した発話を構成する。文の型は平叙文に限られ、(75)のように時制の分化やムード的要素は持てない。一方、あいさつ言葉以外の表現は、通常複数の語からなり、文の型は平叙文以外に、(76)のような疑問文や感嘆文も可能である。

(75) *おはよう?/*おはようね。

(76) 久しぶり。/何見てるの?/〇〇じゃん!

5 結論および今後の課題

従来、あいさつ言葉とあいさつ言葉以外の表現の相違は、表現の持つ意味が形骸化しているか、あるいは実質的な意味内容を持つかという、意味の問題にもつぱら還元されてきた。それに対し、本稿の考察では双方の表現形式から次のように相違を把握することができる。

(77) あいさつ言葉は、極端な省略を許容する反面、表現の拡張に対する制約がきわめて強く、形式は固定的な性質を持つ。

(78) あいさつ言葉以外の表現は、省略も可能だが、文としての自律性を持ち、自由な語結合という拡張的用法や、動詞・副詞・名詞句などの操作に選択の余地が存在するなど、創造的な性質が見られる。

すなわち、両者の特徴は、表現形式から見る限り、性質が固定的か創造的かという点において、対立的な相違を示している。このことから、両者の区別を、意味内容の有無というきわめて曖昧な観点で行ってきた従来の考え方に対し、新たに形式上の特徴の対立という統一的な基準で、両者を異なるカテゴリーとして明確に規定することが可能になると思われる。

今後は、こうした両者の関係づけを始めとして、何をあいさつと考えるかという、基本的な問題に改めて取り組みたいと考える。今回取り上げなかった、聞き手がどのような応答を行うかという観点からの考察も不可欠となるだろう。

参考文献

- 甲斐睦朗 (1981) 「現代日本語のあいさつ言葉について」愛知教育大学国語国文学報第 42 号
- 熊取谷哲夫 (1988) 「発話行為理論と談話行動から見た日本語の『詫び』と『感謝』」広島大学教育学部紀要 第 2 部第 37 号
- 小林祐子 (1981) 「日本人とアメリカ人の挨拶行動—出会いの挨拶」東京女子大学付属比較文化研究所紀要 第 42 号
- 斎藤里美 (1989) 「日本語教育における疑問文・質問文—コミュニケーション上の機能からみた日本語教材の課題—」日本語学 8-8 明治書院、pp.41-56.
- 鈴木孝夫 (1981) 「「あいさつ」とは何か」「あいさつと言葉」文化庁ことばシリーズ 18
- 土屋 (長谷川) 頼子 (1998) 「言語行動を構成する要素とその機能—出会いのあいさつを中心に—」応用言語学研究 5 筑波大学大学院文芸・言語研究科
- 仁田義雄 (1989) 「行こうか戻ろうか—意志表現の疑問化—をめぐって」日本語学 8-8 明治書院、pp.57-69.
- 米川明彦 (1990) 「大学生のことば—あいさつ語を中心に」日本語学 9-4 明治書院、pp.66-74.
- 米田正人 (1992) 「大都市の言語生活—統計資料と実態調査にもとづいて—」日本語学 11-4 明治書院、pp.102-114.
- Aijmer, K. (1996) *Conversational Routines in English: Convention and Creativity*. Longman.
- Coulmas, F. (1979) On the Sociolinguistic Relevance of Routine Formulae. *Journal of Pragmatics* 3:239-266.
- Coulmas, F. ed. (1981a) *Conversational routine: Explorations in standardized communicative situations and prepatterned speech*. The Hague: Mouton.

- Kecskés, I. (2000) A cognitive-pragmatic approach to situation-bound utterances. *J. of Pragmatics* 32:602-625.
- Lüger, H.-H. (1983) Some Aspects of Ritual Communication. *Journal of Pragmatics* 7:695-711.
- Laver, J. (1981) Linguistic Routines and Politeness in Greeting and Parting. in Coulmas ed. (1981)
- Schegloff, E. (1968) Sequencing in Conversational Openings. *American Anthropologist*. Vol. 70:1075-1095.

An analysis of expressions without greetings during encounters

Yoriko HASEGAWA

The initiation of a certain encounter is defined by an exchange of greeting. There has been, however, little discussion about other utterances that can be used there without greetings. This paper deals with those expressions by using two kinds of data: some examples of encounters and results of a questionnaire given to university students. These utterances can be classified into various speech acts, and therefore they have meanings, while most greeting formulae have been desemanticized and ritualized. However, as for their forms, some of these expressions are routinized to some degree. They are comparable to greeting formulae. Finally, it will be suggested that these expressions and greeting formulae have opposite features in their forms. The former have creativity in their forms that permit them to extend their expressions by adding new words or parts of sentences. The latter have fixedness in their forms that doesn't permit them to add any words or parts of sentences.